

看護部長宛の文書にて、病棟および外来師長へ配布を依頼した。また看護師へのアンケートは病棟および外来師長宛の文書で依頼した。全てのアンケートは回答記入後、回答者が個々に郵送にて回収とし、強制等の倫理的問題に抵触しないように努めた。また調査参加の告知については文書で示し、アンケートの返送をもって同意を得ることとした。

#### 4) 調査期間

平成22年12月倫理委員会承認後から平成23年3月末日までとした。

### C. 結果

調査票は現在回収中である。今後、各対象者の実態と認識について分析をすすめる予定である。

平成23年3月11日現在、回収数は①小児がん治療を行っている施設の特徴：27（回収率31.2%）、②小児がん経験者に関する看護の実態：64（回収率7.8%）、③小児がんの長期フォローアップに関する看護の認識：64（回収率7.8%）である。調査票の回収は3月末日を締切としている。

### D. 考察

小児がんサバイバーは、発症時期、合併症ならびに長期的影響の有無によって就労の可能性・継続性は大きく異なる。本研究はまだ調査票を回収中ではあるが、調査票作成過程を経て、多様な問題があることがわかった。

身体的問題が大きい、あるいは医療

依存度の高い群（図1A）については、既存の障害者雇用に関するリソースの応用や資源の活用が可能ではないかと思われる。また、医療依存度が低いにも関わらず、不登校等の問題により雇用の機会を逸している者の多い社会心理的問題群（図1C）については、ジョブカフェ等の若者の就労支援と重複する部分が大いと考えられる。この2群については、小児がん患者に携わる看護職がこれまで関わりの少ない領域であるために、啓蒙教育やリソース等に関する情報提供が必要となると予想される。

現在、長期フォローアップを行っている医療機関は全国で17施設のみである。多くの小児がん治療施設では、フォローアップ期間も治療終了後から3年から成人に達しても診療を続けているところもあり、施設間にばらつきがある状況である。小児がん経験者ではあっても、医療的問題が少ない場合には定期受診も無い場合も考えられ、このような群（D）については、就労に関連する問題もほとんどなく、むしろ小児がん経験者であることが不要な差別や雇用機会の喪失につながる可能性もある。今後小児がん医療全体の中で、長期フォローアップの問題とあわせて検討していく必要があると考えられる。

これまでの研究班の活動内容との整合性から考えると、今後は分担研究者として継続治療やセルフケアの必要な群（図1C）について、就労前段階から就労後の継続性に関して患

者・家族、医療者、就労先への啓蒙や情報提供等のアプローチが必要となると考えられる。また、特に10代患者については、就労をふまえた教育の継続方法、就労の準備性の促進という観点から自律性や社会性をどのように促進するのかについて他職種との連携や施設を超えた組織的・体系的なアプローチが必要となると思われた。

なし

#### E. 結論

本研究は、調査票配布の段階にあるが、これまで小児がんについて就労を前提とした看護についての研究が極めて少ないことから、調査票設計には時間を要した。調査票設計のためのフォーカスグループディスカッションを通して、小児がんサバイバーの就労支援については、特に①継続治療やセルフケアの必要な青年期・若年成人患者、および②10代前半からの就労準備教育に焦点を当てたリソースが必要であることが予想された。

#### F. 研究発表

なし

#### G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

その他

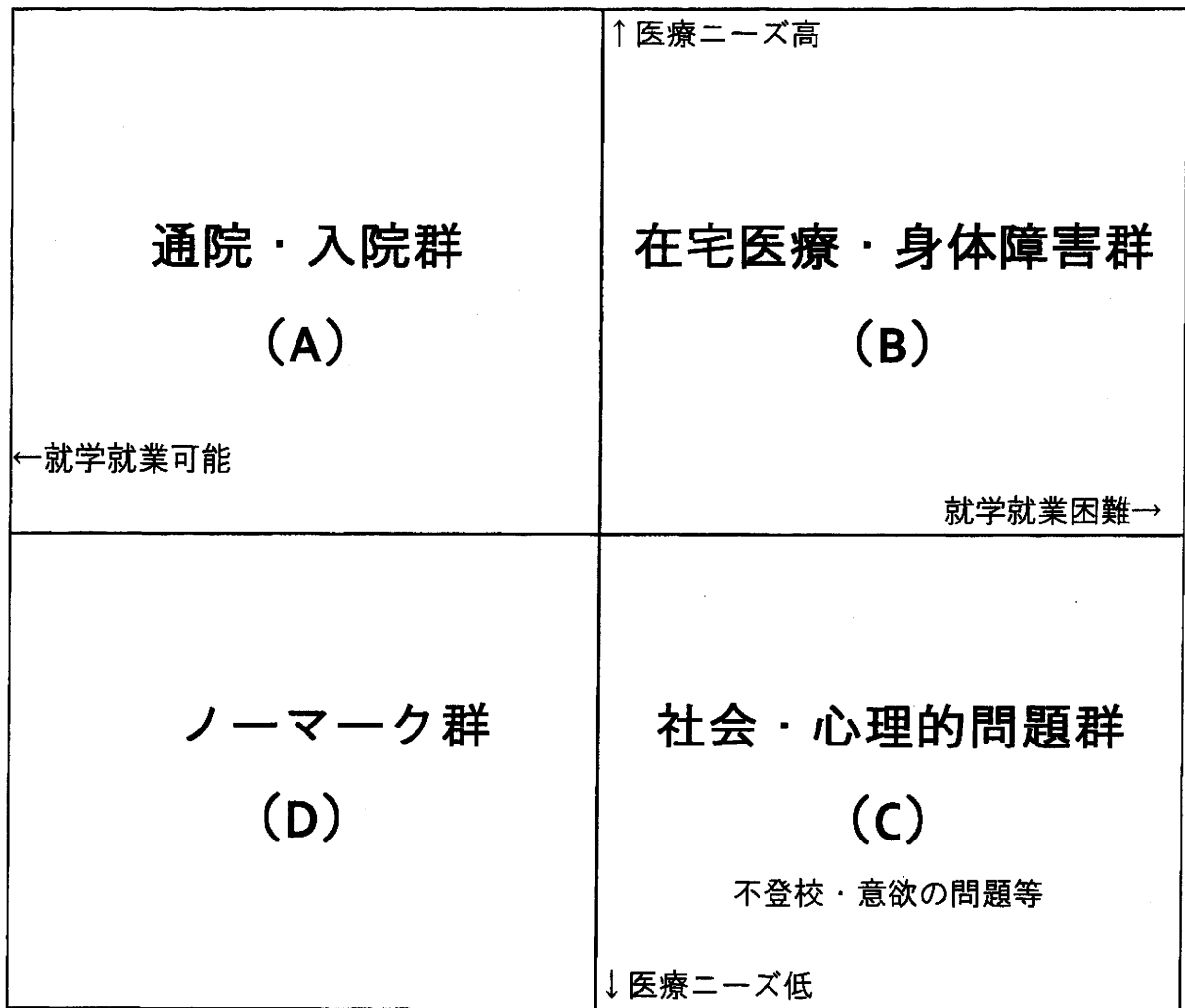


図1 就業可能性と医療ニーズからみた小児がんサバイバーの特徴

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）  
分担研究報告書

子宮頸がんサバイバーの就業に影響を与える要因：  
身体症状・日常生活面への看護に関するレビュー

研究分担者 丸 光恵 東京医科歯科大学大学院  
研究協力者 江川 京子 東京医科歯科大学大学院

研究要旨：子宮頸がんは20代からの若年層に増加傾向が認められているものの、早期発見・早期治療により5年生存率は80-90%に達している。しかし、原病や治療の副作用により、退院後の日常生活での身体的・心理的負担は大きい。今後、原病や治療による身体症状や、患者が行う症状マネジメントに着目し、患者支援についての調査を行うため、今回は日常生活上に問題となる子宮頸がんサバイバーの身体面の問題について国内外の文献・資料のレビューを行った。

#### A. 研究目的

子宮頸がん治療後に就労や家事に影響を与えるなどして問題となる、長期にわたって生活に影響を及ぼす症状、特に身体的な症状について過去の研究内容を明らかにする。

#### B. 研究方法

1) 日常生活上に問題となる子宮頸がんサバイバーの身体面の問題について国内外の資料やレビュー文献の収集、分析。

2) 1) の資料およびレビュー文献の分析から明らかとなったキーワードをもとに、子宮頸がん患者の支援に関する国内の文献・資料の収集と分析。

(倫理面への配慮)

研究対象はこれまでに発表された研究論文や一般的に公開されている資料に基づいた情報であるため、本調査の研究対象

への倫理面に関しては問題ないと判断した。

#### C. 研究結果

1) 子宮頸がん、乳がん、前立腺がん、大腸がんの4つのがんについて、過去の研究をまとめたレビュー文献では身体面では慢性的なFatigue、痛み、身体機能の制限、心理面では睡眠障害、うつや不安、心理社会的な側面では性機能障害や認知機能の問題について、どのがんにも共通している症状として明らかにされた。また、これらの症状は初回治療から10年にもわたってさまざまながんのサバイバーシップに影響を及ぼしていた。同研究で治療やがんの種類を問わず最も多くの研究で報告されたのはFatigue、うつ、不安で、特にFatigueは多くのがんサバイバーにとって最もストレスフルな症状とされた。

子宮頸がんサバイバーにおいては、Fatigue がうつよりも多くの患者に生じていることも示唆された。Fatigue は 17-33% の患者で平均して治療後 3 年から 8 年という期間にわたって生じ、2 つの研究では、子宮頸がんサバイバーが一般の人より深刻な Fatigue で苦しんでいることが明らかにされた。

サバイバーの就労や復職の状況、就労や復職を促進する要因、就職や復職を妨げる障害となるものなどについて過去の研究を調査したレビュー文献では、就労に影響する要因として主にがんや治療による身体的・心理的な影響、職場の環境や人間関係、そして社会的なサポートが挙げられた。そのうちがんの影響には、重篤な Fatigue のマネジメントの重要性が示唆された。またがんに関連した Fatigue や身体の疲労が家事と就労の両方でがんサバイバーに影響を及ぼした。調査研究では、がんでない対象者と比べても、サバイバーがより Fatigue によって家事や就業でより深刻な影響を受けていることが明らかにされた。

子宮頸がんサバイバーに特徴的な症状として下肢のリンパ浮腫が挙げられ、Beesley らの研究では、手術後の患者において、臨床的にリンパ浮腫と診断された患者の 2 倍以上の対象者が下肢のむくみを報告し、下肢のむくみに併せて、重み、肌の張り、痛みを経験していた。さらにリンパ浮腫と診断されている女性の 6 割以上が日常生活に困難を感じていた。さらに浮腫の発症・悪化、発症後に慢性化することに対する不安、セクシュアリティやボディイメージへの影響といった心理社会的側面にも大きな影響を及ぼすことが明らかにさ

れた。

2) 子宮頸がん国内の研究について調査するため、医学中央雑誌を使用して、過去 5 年間の原著論文について「子宮頸がん」と「症状」をキーワードにして、120 件の文献が検索された。それらのタイトルと概要を通読し、対象に子宮頸がん患者が含まれるものは 109 件、残りの 11 件は多くが子宮頸がん検診やワクチン接種に関するものや、婦人科再発胆がん、放射線性膀胱炎に焦点をあてたものであり、分析対象から除外された。109 件の文献から、治療後の副作用症状や合併症に焦点を当てたものは 30 件抽出された。除外された文献は主に、手術や化学療法に関する治療成績、終末期患者への全人的ケア、疾患の病態や種類による予後に関する調査であった。抽出された 30 件は、がんの痛みに関するものが 8 件、治療中の不安障害について 1 件、残りの 21 件が治療に伴う身体症状と治療後の合併症に関するものであった。これまでの症状研究のほとんどは手術・放射線・化学療法直後に生じる排尿障害や消化器症状などの身体症状に関する調査研究であり、治療終了後に生じた合併症に関する内容は、放射線後の膀胱断裂や、小腸穿孔に関する研究であった。

#### D. 考察

子宮頸がんサバイバーの身体症状に関する研究では、がん治療後の生活および就労支援につながる研究は未発達な分野であることが明らかになった。治療後の副作用の影響はサバイバーにとって大きな負担となっており、家事従業や就労など活動

的に過ごす若年の子宮がんサバイバーにとっては、身体的苦痛となるだけでなく、心理的、そして心理社会的な苦痛の要因となっていると考えられる。

#### E. 結論

今後の研究では、子宮頸がんサバイバーのFatigueやリンパ浮腫などの身体症状に焦点を当て、社会や家庭での女性の役割や女性に特徴的な心理的要因を含めた、さまざまな要因が子宮頸がんサバイバーの日常生活や社会復帰にどのように影響しているのかを明らかにし、研究に基づいた症状マネジメントや必要な社会的支援の提供が必要である。

#### F. 研究発表

1. 論文発表  
特になし
2. 学会発表

Kyoko Egawa, Mitue Maru, Rumi Maeda, Miyako Takahashi. Analysis of internet information for women with cervical cancer and their families :Is it helpful for women with multiple roles? *14th East Asian Forum of Nursing Scholars*, 12nd February 2011. Korea, Seoul.

- #### G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)
1. 特許取得  
なし
  2. 実用新案登録  
なし
  3. その他

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）  
分担研究報告書

乳がん患者と配偶者の診断後サバイバーシップに関する研究

研究分担者	高橋 都	獨協医科大学公衆衛生学講座准教授
同	多賀谷信美	獨協医科大学第二外科学講座准教授
同	武藤孝司	獨協医科大学公衆衛生学講座教授
同	甲斐一郎	東京大学大学院医学系研究科教授
研究協力者	円谷美也子	獨協医科大学第一外科学助教
同	吉野美紀子	東京大学大学院医学系研究科特任研究員
同	樺沢佳子	獨協医科大学公衆衛生学講座
同	川俣栄梨	獨協医科大学公衆衛生学講座

研究要旨：乳がん発病が患者本人と夫の就労や心理状態に及ぼす影響を明らかにする目的で、2011年2月から3月にかけて獨協医大外科外来において無記名自記式質問紙調査を実施した。調査票は外来で配布し、郵送回収した。総配布数283件のうち配偶者を有する者が225名。患者本人から201件回収（回収率71.0%）、配偶者から137件回収（回収率60.9%）し、結果を分析中である。

#### A. 研究目的

がんの診断・治療は、本人や配偶者の心身健康の変化を引き起こし、ひいては家族の生活全体に大きな影響を及ぼす。欧米の先行研究では診断後の夫婦の心身健康度、病気への心理的適応度、夫婦関係満足度などが相関することが指摘されているが（Northouse, 1993）、わが国ではがん患者の夫婦相関研究はほとんど存在せず、もっとも大きな影響を被ると考えられる配偶者に向けた支援も手薄である。また、がん患者と家族の生活全体に影響する要因として、がん治療と就労の両立や、親の病状の子どもへの伝え方も昨今指摘されているが、これらに関する国内の実証研究も不足しており、具体的な

支援の検討に向けた基礎データが蓄積されていない。

さらにがん体験は、本人や家族の心身の健康を損なうだけでなく、結果的に内的成長を促したり人生観に影響を及ぼしたりすることも指摘されている（宅, 2010; 上別府ほか, 2010）。しかし、わが国の成人がん患者と家族についてこの点を実証的に検討した先行研究は調べた限り認められない。

本研究では、日本人女性の中でもっとも罹患率の高い乳がんとその夫をとりあげ、本人・配偶者・子どもへの支援教材やカリキュラムの開発に向けた基礎データを得るため、以下の3点を研究目的とする。

- ① 乳がん患者本人について、術後の心身健康度、夫婦関係満足度、就労状況の変化、子どもへの病状の伝え方、病気による内的成長を定量的に明らかにするとともに、その関連要因を検討する。
- ② 乳がん患者の配偶者について、心身健康度、夫婦関係満足度、子どもへの病状の伝え方、病気による内的成長を定量的に明らかにするとともに、その関連要因を検討する。
- ③ 心身健康度、夫婦関係満足度、子どもへの病状の伝え方、病気による内的成長について、夫婦間の一致度を明らかにするとともに、その関連要因を検討する。

## B. 研究方法

### <対象者>

獨協医科大学病院第一外科外来（円谷医師担当）、第二外科外来（多賀谷医師担当）を受診する乳がん患者および、配偶者を有する場合はその配偶者。配偶者への配布は、患者本人を経由する。

### <乳がん患者配布条件>

- ・確定診断後1カ月以上経過。
- ・主治医が調査対象として適格と判断。  
（著しく心理的に不安定の場合は除く）
- ・ステージ・再発の有無は問わない。

### <配偶者配布条件>

配偶者には患者本人の判断にて調査票を手渡す。配偶者が著しく心理的に不安定の場合は除く。

## C. 研究結果

文献レビューなどにに基づき、以下の調査項目を設定した。

### 1. 患者本人用（資料1）

- a. 回答者の属性：年齢、月経の状況、最終学歴、婚姻状況、結婚後経過期間、子どもの有無、就業の有無、特定の信仰の有無
- b. 臨床的背景：診断後経過期間、治療内容（術式・再建術の有無・補助療法の有無）
- c. 生活上の変化：
  - ・ 就労状況の変化、就労満足度尺度（原谷，2004）
  - ・ （子どもがいる場合）子どもへの病気の伝え方
- d. 心身の状況：
  - ・ 心身の健康状態：SF8（福原，2004）8項目
  - ・ 抑うつ度：CES-D日本語版（島，1985）20項目
  - ・ 周囲からの支援：自治医大ソーシャルサポートスケール（堤，2000）8項目×3種
  - ・ 病気へのコーピング尺度（塚本，2001）26項目
- e. 夫婦関係満足度
  - ・ 夫婦関係満足度尺度（諸井，1996）6項目
  - ・ （夫がいる場合）夫との人間関係全体の変化、夫との性的関係の変化
- f. 病気による内的成長：Post Traumatic Growth Scale (PTGS) 日本語版（Taku，2008）21項目

### 2. 配偶者用（資料2）

- a. 回答者の属性：年齢、最終学歴、婚姻状況、結婚後経過期間、子どもの有無、特定の信仰の有無
- b. 妻の臨床的背景：診断後経過期間、治療内容（術式・再建術の有無・補助療法の有無）
- c. 生活上の変化：



- ◆ (子どもがいる場合) 子どもへの病気の伝え方
- d. 心身の状況：
  - ◆ 心身の健康状態：SF8 (福原, 2004) 8 項目
  - ◆ 抑うつ度：CES-D 日本語版 (島, 1985) 20 項目
  - ◆ 妻の病気と関連した体調の変化：9 種
  - ◆ 周囲からの支援：自治医大ソーシャルサポートスケール (堤, 2000) 8 項目×3 種
- e. 夫婦関係満足度
  - ◆ 夫婦関係満足度尺度 (諸井, 1996) 6 項目
  - ◆ 妻との人間関係全体の変化、妻との性的関係の変化
- f. 病気による内的成長：Post Traumatic Growth Scale 日本語版 (Taku, 2008) 21 項目

平成 23 年 2 月、3 月にデータ収集を行った。総配布数 283 件のうち配偶者を有する者が 225 名。患者本人から 201 件回収 (回収率 71.0%)、配偶者から 137 件回収 (回収率 60.9%) し、結果を分析中である。

#### D. 考察

本質問紙調査では、患者本人と配偶者のデータのみならず、カップルとしてのペアデータが得られる点が独創的である。特に、就労状況や夫婦関係満足度、さらに Post Traumatic Growth については、ペアデータとして本邦初である。回収率は患者本人が 71.0%、配偶者が 60.9% であり、通常の社会調査と比較してかなり高い。特に、137 組のペアデータが得られたことは特筆すべきであり、今後の分析によって患者本人と配偶者のそれぞれに向けた効果的な支援方法の開発が期待される。

#### E. 結論

本質問紙調査では良好な回収率が得られ、患者本人と配偶者の双方の立場からの実態分析とともに、両者の相関とその関連要因の分析も可能であり、効果的な支援リソースの開発に向けた貢献が期待される。

#### F. 研究発表

##### 1. 論文発表

###### (1) 学術雑誌

- 1) Ledesma D, Takahashi M, Kai I: Interest in a group psychotherapy program among Philippine breast cancer patients and its correlative factors. *Psycho-Oncology*, DOI:10.1002/pon.1804, 2010

###### (2) 書籍

- 1) Takahashi M: Health Promotion for Cancer Survivors: New Paradigm beyond Prevention and Treatment. In Muto T, Nakahara T, Eun WN eds, *Asian Perspectives and Evidence on Health Promotion and Education*, Springer pp78-86, 2010
- 2) 高橋 都: コミュニケーションをとろう! CSR プロジェクト編, *がんと一緒に働こう!* pp147-148, 合同出版, 2010
- 3) 高橋 都: 職業的介入者がもつ「当事者感覚」. 清水哲郎・島菌進編, *ケア従事者のための死生学*, pp64-74, *ニューヴェルヒロカワ*, 2010

##### 2. 学会発表

- 1) 高橋 都: がん治療を受ける患者と家族の就労支援: 治療医・産業医・人事 労務担当者の連携に向けて. 第 28 回産業医学学

会総会 シンポジウム「有病者の就業配 其他 なし  
慮」 2010年10月(北九州)

G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

## 資料1 患者本人用調査票

Q1 乳がんと診断されたのはいつですか

平成( )年( )月

お受けになった治療についてうかがいます。ひとつに○をつけてください。

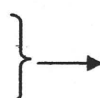
Q2 手術(複数回答可) 1. 乳房全摘術 2. 乳房温存術

Q3 乳房再建手術 1. うけた(実施中を含む) 2. うけていない

Q4 放射線療法 1. 実施中 2. 過去にうけた 2. うけていない

Q5 抗がん剤治療(複数回答可)

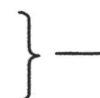
- 1. 実施中
- 2. 過去にうけた
- 3. うけていない



a. 点滴・注射	b. 飲み薬
c. 両方	

Q6 ホルモン療法(複数回答可)

- 1. 実施中
- 2. 過去にうけた
- 3. うけていない



a. 点滴・注射	b. 飲み薬
c. 両方	

Q7 以下の質問は、あなたが自分の健康をどのように考えているかをおうかがいするものです。あなたが毎日をどのように感じ、日常の活動をどのくらい自由にできるかを知るうえで参考になります。以下のそれぞれの質問について、もっともよくあてはまる場所に○をつけてください。

例 全体的にみて、過去1ヶ月間のあなたの健康状態はいかがでしたか。

最高に良い	とても良い	良い	あまり良くない	よくない	ぜんぜん良くない
	○				

1. 全体的にみて、過去1ヶ月間のあなたの健康状態はいかがでしたか。

最高に良い	とても良い	良い	あまり良くない	よくない	ぜんぜん良くない

2. 過去1ヶ月間に、身体をつかう日常活動(歩いたり階段を昇ったりなど)をすることが身体的な理由でどのくらい妨げられましたか。

ぜんぜん、妨げられなかった	わずかに妨げられた	少し妨げられた	かなり妨げられた	体を使う日常活動ができなかった

3. 過去1ヶ月間に、いつもの仕事（家事も含みます）をすることが、身体的な理由でどのくらい妨げられましたか。

ぜんぜん、妨げられなかった	わずかに妨げられた	少し妨げられた	かなり妨げられた	いつもの仕事ができなかった

4. 過去1ヶ月間に、体の痛みはどのくらいありましたか。

ぜんぜんなかった	かすかな痛み	軽い痛み	中くらいの痛み	強い痛み	非常に激しい痛み

5. 過去1ヶ月間、どのくらい元気でしたか。

非常に元気だった	かなり元気だった	少し元気だった	わずかに元気だった	ぜんぜん元気でなかった

6. 過去1ヶ月間に、家族や友人とのふだんのつきあいが、身体的あるいは心理的な理由で、どのくらい妨げられましたか。

ぜんぜん、妨げられなかった	わずかに、妨げられた	少し、妨げられた	かなり、妨げられた	つきあいができなかった

7. 過去1ヶ月間に、心理的な問題（不安を感じたり、気分が落ち込んだり、イライラしたり）に、どのくらい悩まされましたか。

ぜんぜん悩まされなかった	わずかに悩まされた	少し悩まされた	かなり悩まされた	非常に悩まされた

8. 過去1ヶ月間に、日常行う活動（仕事、学校、家事などのふだんの行動）が、心理的な理由でどのくらい妨げられましたか。

ぜんぜん、妨げられなかった	わずかに、妨げられた	少し、妨げられた	かなり、妨げられた	日常行う活動ができなかった



Q8 以下の文章のそれぞれについて、乳がんの診断を受けた結果、あなたの生き方にこれらの変化がどの程度生じたか、もっともあてはまるところにひとつ○をつけてください。

	(これらの変化を)	まったく経験しなかった	ほんの少しだけ経験した	少し経験した	まあまあ経験した	強く経験した	かなり強く経験した
1	人生において、何が重要かについての優先順位を変えた。	1	2	3	4	5	6
2	自分の命の大切さを痛感した。	1	2	3	4	5	6
3	新たな関心事を持つようになった。	1	2	3	4	5	6
4	自らを信頼する気持ちが強まった。	1	2	3	4	5	6
5	精神性（魂）や、神秘的な事柄についての理解が深まった。	1	2	3	4	5	6
6	トラブルの際、人を頼りに出来ることが、よりはっきりと分かった。	1	2	3	4	5	6
7	自分の人生に、新たな道筋を築いた。	1	2	3	4	5	6
8	他の人達との間で、より親密感を強く持つようになった。	1	2	3	4	5	6
9	自分の感情を、表に出しても良いと思えるようになってきた。	1	2	3	4	5	6
10	困難に対して自分が対処していけることが、よりはっきりと感じられるようになった。	1	2	3	4	5	6
11	自分の人生で、より良い事ができるようになった。	1	2	3	4	5	6
12	物事の結末を、よりうまく受け入れられるようになった。	1	2	3	4	5	6
13	一日一日を、より大切にできるようになった。	1	2	3	4	5	6

	(これらの変化を)	まったく経験しなかった	ほんの少しだけ経験した	少し経験した	まあまあ経験した	強く経験した	かなり強く経験した
14	その体験なしではありえなかったような、新たなチャンスが生まれている。	1	2	3	4	5	6
15	他者に対して、より思いやりの心が強くなった。	1	2	3	4	5	6
16	人との関係に、さらなる努力をするようになった。	1	2	3	4	5	6
17	変化することが必要な事柄を、自ら変えていこうと試みる可能性が、より高くなった。	1	2	3	4	5	6
18	宗教的信念が、より強くなった。	1	2	3	4	5	6
19	思っていた以上に、自分は強い人間であるということを発見した。	1	2	3	4	5	6
20	人間が、いかにすばらしいものであるかについて、多くを学んだ。	1	2	3	4	5	6
21	他人を必要とすることを、より受け入れるようになった。	1	2	3	4	5	6

Q9 病気についての心配や将来の不安などでストレスを感じる時、あなたはどのように対処していますか。以下に様々な対処方法を示してありますので、それぞれについて「しょっちゅうそうする」「ときどきそうする」「たまにそうする」「まったくしない」の中からひとつ選んであてはまる数字を○で囲んでください。

		まったくしない	たまに そうする	ときどき そうする	しょっちゅう そうする
	(病気に対応するにあたって)				
1	医師や看護師から医療上のアドバイスをもらう	1	2	3	4
2	音楽を聴いて気を落ち着かせる	1	2	3	4
	(病気に対応するにあたって)	たつま	にまた	どきと	つよし
3	神仏に拜む	1	2	3	4



4	「しっかりしなくてはいけない」と自分で自分を励ます	1	2	3	4
5	食べたり、飲んだりして気を紛らわす	1	2	3	4
6	病気も、人生の試練だと思って耐える	1	2	3	4
7	じたばたしてもどうしようもないと開き直る	1	2	3	4
8	これまでの問題点を反省し、将来の計画をたてる	1	2	3	4
9	医師や看護師に話を聞いてもらう	1	2	3	4
10	つらくてもがまんする	1	2	3	4
11	ひとしきり泣いて、気持ちを整理する	1	2	3	4
12	元気になった自分を想像して頑張る	1	2	3	4
13	他人や物に八つ当たりをする	1	2	3	4
14	辛い気持ちを誰かに話し、なぐさめてもらう	1	2	3	4
15	病気になったことの良い面だけを見るように努力する	1	2	3	4
16	家族や親しい人にアドバイスを求める	1	2	3	4
17	特に何もせずに、なるようになると考える	1	2	3	4
18	家族や親しい人に対処方略を教えてもらう	1	2	3	4
19	運命に従うしかないと思きらめる	1	2	3	4
20	趣味や運動を楽しむ	1	2	3	4
21	突然悩みが消えてしまうことを願う	1	2	3	4
22	家族や親しい人に励ましてもらう	1	2	3	4
23	病気についてあまり深刻に考えないようにする	1	2	3	4
24	たいしたことではないと自分に言い聞かせる	1	2	3	4
25	今やらねばならない仕事や課題に集中する	1	2	3	4
26	将来に希望を持つようにする	1	2	3	4

Q10 この1週間のあなたのからだや心の状態についてお聞きします。下の20の文章を読んで下さい。各々のことがらについて

◎もしこの1週間で全くないか、あったとしても1日も続かない場合は「1」

◎週のうち1～2日なら「2」

◎週のうち3～4日なら「3」

◎週のうち5日以上なら「4」

のところを○でかこんで下さい。

	この1週間のうちで			
	ない	1-2日	3-4日	5日以上
1 普段は何でもないことがわずらわしい。	1	2	3	4
2 食べたくない。食欲が落ちた。	1	2	3	4
3 家族や友人にはげましてもらっても、気分が晴れない。	1	2	3	4
4 他の人と同じ程度には、能力があると思う。	1	2	3	4
5 物事に集中できない。	1	2	3	4
6 ゆううつだ。	1	2	3	4
7 何をするのも面倒だ。	1	2	3	4
8 これから先のことについて積極的に考えることができる。	1	2	3	4
9 過去のことについてくよくよ考える。	1	2	3	4
10 何か恐ろしい気持ちがある。	1	2	3	4
11 なかなか眠れない。	1	2	3	4
12 生活について不満なくすごせる。	1	2	3	4
13 ふだんより口数が少ない。口が重い。	1	2	3	4
14 一人ぼっちでさびしい。	1	2	3	4
15 皆がよそよそしいと思う。	1	2	3	4
16 毎日が楽しい。	1	2	3	4
17 急に泣き出すことがある。	1	2	3	4
18 悲しいと感じる。	1	2	3	4
19 皆が自分をきらっていると感じる。	1	2	3	4
20 仕事が手につかない。	1	2	3	4



Q11 婚姻状況についてうかがいます。

1. 夫がいる (結婚期間 年) → Q12～16にもお答えください。
2. 夫と死別した
3. 夫と離別した
4. 未婚である
- } Q17にお進みください。

Q12 あなたと夫との関係についてお伺いします。以下に、日ごろ、夫との関係について、あなたがもつかもしれないさまざまな気持ちや態度を並べてあります。それぞれについて、日ごろのあなたの気持ちや態度にどのくらいあてはまるかを答えてください。「1. ほとんどあてはまらない」、「2. どちらかといえばあてはまらない」、「3. どちらかといえばあてはまる」、「4. かなりあてはまる」のうち、最も該当すると思うもの一つに○をつけてください。あまり考えすぎると決められなくなりますから、だいたいの感じで、できるだけすばやく判断してください。

	あ て は ま ら な い	ほ と ん ど	い ば あ て は ま ら な い	ど ち ら か と い え ば あ て は ま ら な い	ど ち ら か と い え ば あ て は ま る	あ て は ま る	か な り
1) 私たちは、カップルとして申し分のない生活を送っている。	1		2		3		4
2) 私と夫の関係は、ひじょうに安定している。	1		2		3		4
3) 私たちのカップル関係は、強固である。	1		2		3		4
4) 夫との関係によって、私は幸福である。	1		2		3		4
5) 私は、まるで自分と夫が同じチームの一員のようにあると、ほんとうに感じている。	1		2		3		4
6) 私は、夫との関係のあらゆるものを思い浮かべると、幸福だと思う。	1		2		3		4

Q13 診断の前と後を比較して、夫との人間関係全体に変化はありましたか。ひとつに○をしてください。

- 1.良くなった 2.変わらない 3.悪くなった 4.わからない

Q14 診断の前と後を比較して、夫との性生活に変化はありましたか。ひとつに○をしてください。

- 1.良くなった 2.変わらない 3.悪くなった 4.わからない  
5.診断前から性生活がなかった

Q15 以下は、あなたと夫との関係についての質問です。

それぞれの項目について、あてはまる番号に○をしてください。

それぞれの項目について、あてはまる番号に○をしてください。	非常に そう思う	まあ そう思う	あまり そうは思 わない	まったく そうは 思わない
(1) あなたに何か困ったことがあって、自分の力ではどうしようもないとき、助けてくれる	1	2	3	4
(2) あなたが経済的に困っているときに、頼りになる	1	2	3	4
(3) あなたが病気で寝込んだときに、身の回りの世話をしてくれる	1	2	3	4
(4) 引っ越しをしなければならなくなったときに、手伝ってくれる	1	2	3	4
(5) 家事をやったり、手伝ったりしてくれる	1	2	3	4
(6) あなたの喜びを我がことのように喜んでくれる	1	2	3	4
(7) お互いの考えや将来のことなどを話し合うことができる	1	2	3	4
(8) 夫がいるので孤独ではないと思う	1	2	3	4

すべての方におうかがいします。

Q16 以下は、あなたと夫以外の家族との関係についての質問です。

それぞれの項目について、あてはまる番号に○をしてください。

それぞれの項目について、あてはまる番号に○をしてください。	非常に そう 思う	まあ そう 思う	あまり そう は思 わない	まったく そう は 思 わない
(1)あなたに何か困ったことがあって、自分の力ではどうしようもないとき、助けてくれる	1	2	3	4
(2)あなたが経済的に困っているときに、頼りになる	1	2	3	4
(3)あなたが病気で寝込んだときに、身の回りの世話をしてくれる	1	2	3	4
(4)引っ越しをしなければならなくなったときに、手伝ってくれる	1	2	3	4
(5)家事をやったり、手伝ったりしてくれる	1	2	3	4
(6)あなたの喜びを我がことのように喜んでくれる	1	2	3	4
(7)お互いの考えや将来のことなどを話し合うことができる	1	2	3	4
(8)家族がいるので孤独ではないと思う	1	2	3	4

Q17 以下は、あなたと友人との関係についての質問です。

それぞれの項目について、あてはまる番号に○をしてください。

それぞれの項目について、あてはまる番号に○をしてください。	非常に そう 思う	まあ そう 思う	あまり そう は思 わない	まったく そう は 思 わない
(1)あなたに何か困ったことがあって、自分の力ではどうしようもないとき、助けてくれる	1	2	3	4
(2)あなたが経済的に困っているときに、頼りになる	1	2	3	4
(3)あなたが病気で寝込んだときに、身の回りの世話をしてくれる	1	2	3	4
(4)引っ越しをしなければならなくなったときに、手伝ってくれる	1	2	3	4
(5)家事をやったり、手伝ったりしてくれる	1	2	3	4
(6)あなたの喜びを我がことのように喜んでくれる	1	2	3	4
(7)お互いの考えや将来のことなどを話し合うことができる	1	2	3	4
(8)友人がいるので孤独ではないと思う	1	2	3	4

